

2. 緑地の評価と課題の整理

(1) 解析評価の視点

都市における緑の機能としては、「人と自然が共生する都市環境を確保することができる」「緑の持つ多様な機能の活用により、変化に対応した余暇空間を確保できる」「災害防止、避難地、救援活動拠点などの機能により、都市の安全性を確保できる」「多様性や四季の変化が心を育み、潤いのある美しい景観を形成する」の4つが考えられます。

表 7 都市における緑の機能

・人と自然が共生する都市環境を確保することができる	・緑の持つ多様な機能の活用により、変化に対応した余暇空間を確保できる	・災害防止、避難地、救援活動拠点などの機能により、都市の安全性を確保できる	・多様性や四季の変化が心を育み、潤いのある美しい景観を形成する
環境保全機能	レクリエーション機能	防災機能	景観構成機能
<ul style="list-style-type: none"> ・都市環境の骨格形成 ・気温の緩和、大気の浄化 ・四季性などの精神的安らぎ ・生物の生息環境の保全 	<ul style="list-style-type: none"> ・散策等健康増進 ・スポーツレクリエーション利用 ・花見等の行楽 ・自然とのふれあい 	<ul style="list-style-type: none"> ・延焼遮断帯 ・緊急避難 ・広域避難 ・流量の調整、遊水機能 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなみ景観形成 ・田園景観の形成 ・自然的景観の形成 ・歴史・文化景観の形成

向日市の緑地を解析評価するうえでも、この4機能に着目して現状の分析や将来の緑づくりの検討を行いました。評価結果は、次表・次図のとおりです。

表 8 緑地の機能評価

: 大きな機能を有する
: 機能を有する

区分	環境保全				レクリエーション				防災				景観構成						
	都市環境の骨格形成	大気浄化	気温緩和、精神的「安さ」	四季性等	生物棲息環境の保全	健康増進	散歩等のレク利用	スポーツ	花見等の行楽	ふれあいの自然	延焼遮断帯	緊急避難	広域避難	遊水・洪水調整	景観の形成	まちなみ	田園景観の形成	自然景観の形成	歴史・文化景観の形成
西ノ岡丘陵																			
はり湖池周辺																			
勝山公園一帯																			
大極殿公園																			
噴水公園																			
市民体育館周辺																			
向日町競輪場																			
古墳・遺跡地																			
調整区域農地																			
生産緑地																			
社寺境内地																			
歴史の道																			
桜の径																			
川沿いの緑 (小畑川一帯)																			
公共施設の緑																			
都市公園 (街区等)																			
児童公園																			
学校																			
墓地																			
緑の多い住宅地																			
農村型市街地																			

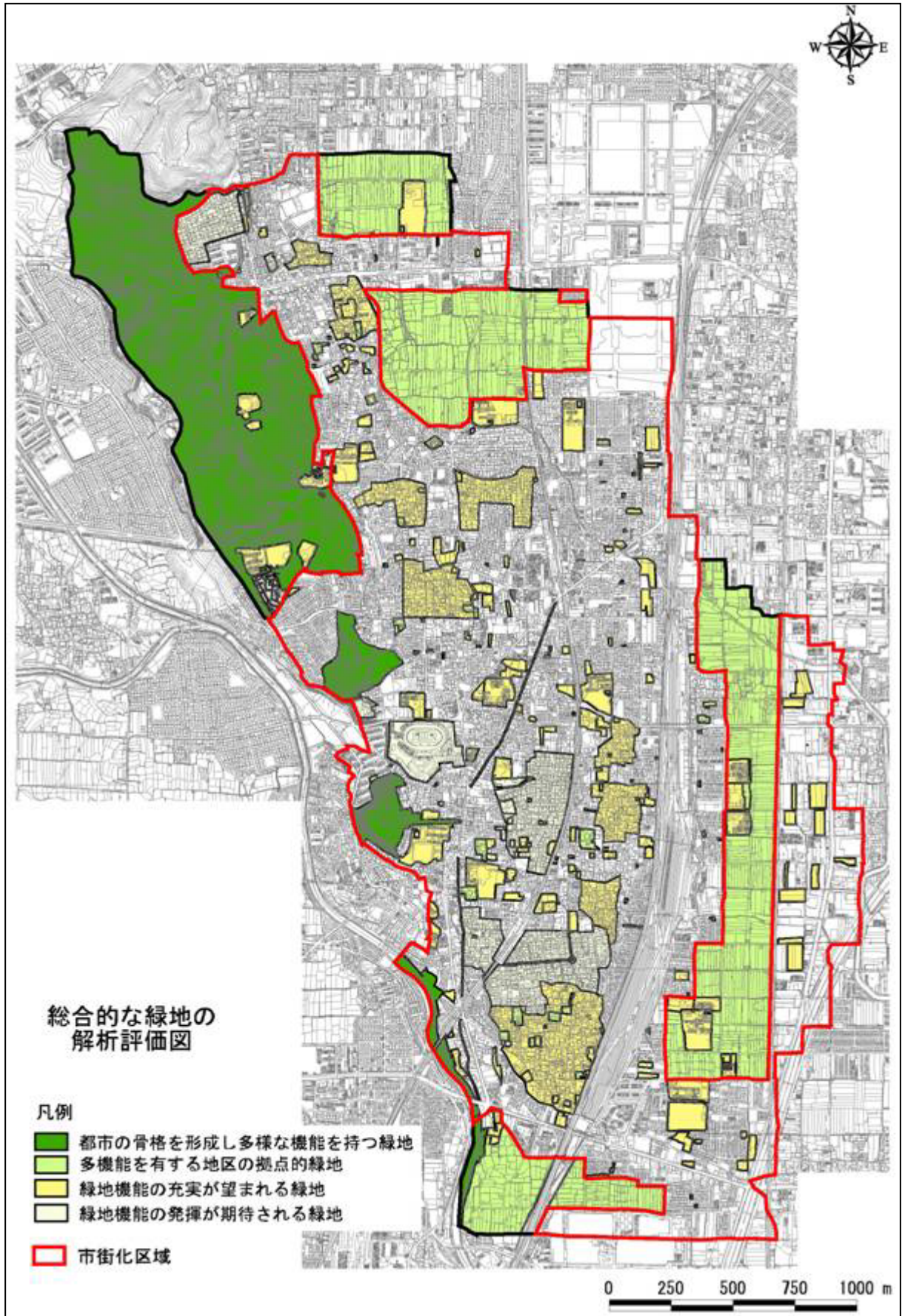


図 10 総合的な緑地の解析評価図

(2)緑の課題

西ノ岡丘陵の緑の保全

- ・ 西ノ岡丘陵は、本市の西端を区切る象徴的な緑であるが、南部を中心に宅地開発等により緑の分断化が進行しているほか、竹林の管理が十分でないところがあるため、緑の荒廃化も目立ってきています。
- ・ 本市に残された唯一の緑地軸として、都市環境、生物生息環境、景観、レクリエーション、防災など、多様な機能を発揮する緑地として、今後とも積極的に保全・育成を図っていくことが必要となっています。

一団の農地の保全

- ・ 人口密度の高い本市の市街地にあつて、北部、東部、南部に残された農地は、きわめて重要なオープンスペースとなっています。
- ・ これらの農地の多面的機能を重視し、農地の活用という視点から緑地としての担保性を高めていくことが必要です。

市街地環境の改善に資する緑の保全と活用

- ・ 人口密度の高い市街地内にあつて、都市公園や広場、学校、公共施設付帯緑地、生産緑地などは、きわめて重要なオープンスペースとなっています。
- ・ これらの緑地をきめ細かく保全するとともに、積極的に活用していくことが、快適環境の確保および防災面等においても重要な課題となっています。

歴史を継承する緑地の保全

- ・ 本市は長岡京という、全国でも特異な歴史をもつところであるが、その面影は宅地開発の波の中で、失われつつあります。
- ・ このため、国史跡・長岡京跡の面影を維持しつつ、多くの市民や来訪者がその歴史性を理解できるよう、公園緑地等としての整備はもとより、歴史の径づくりなどネットワーク性を重視した緑の育成を図る必要があります。

身近な緑の確保・創出

- ・ 近くに公園や緑が少ないことは、市民意向調査からも明らかであり、その確保を今後地道に進めていく必要があります。
- ・ 市街地内の緑の道空間の確保に努めます。
- ・ さらに市街地内に点在する生産緑地の評価と計画的な活用方策の検討が必要です。

地区の中心的公園の確保

- ・ 地区レベルのレクリエーション対応については、現在の小規模な街区公園や学校施設の開放だけでは不十分です。防災面においても、一次避難あるいは救援のための防災活動拠点として一定の近隣公園レベルの都市公園が必要となっています。
- ・ このため、近隣公園レベルの公園については、今後の都市ビジョンを見据えつつ、計画的に配置していく必要があります。